

はじめに

インターネットもブロードバンド時代に突入し、いろいろな方面でコンテンツが開発されており、音の利用に関しましても例外ではありません。4年前に当財団が発刊致しました「マルチメディアにおける音の効果的利用に関する調査研究報告書」で考察した状況が既実現されたと言えます。特に、通信環境などインフラの面では通信速度の向上は日進月歩であり、まもなく光通信を中心とする時代がやって参りましょう。しかし、インフラの整備の反面、それを使って何をするか、すなわちコンテンツの充実度は今だ希薄なままで推移しております。ビジネスに係わるコンテンツはメーカ主導で充実して参りましたが、本来自由に誰でもが使える通信環境であるインターネットを活用し、地域のコミュニティ活動・文化芸術活動など市民参加の草の根的な活動は脆弱と申せませう。この面での充実を目指し、個人個人の知識空間・コミュニケーション空間がひろがり、双方向コミュニケーションがより密になり、ブロードバンドを使って地域生活から社会まで幅広く躍動することが真の意味で情報化社会と申せませう。

本報告書はこの様な現況に鑑み、現況の整理・検討を通じて幅広い市民参加型の音の利用のコンテンツの今後の展開をまとめたものであります。

最後に、本報告書の作成にあたりまして、調査研究にご協力戴きました関係各位に謝意を表しますとともに、本報告書が情報化社会の更なる発展に寄与できますれば幸いに思います。

平成14年3月

財団法人 サウンド技術振興財団
理事長 河合弘隆
(株)河合楽器製作所代表取締役社長